

DCとはDefined Contributionの略=確定拠出年金のことです。 平成21年2月6日 NO.64

年金資産の運用においては、長期投資を旨とし、分散投資を行い、時には資産配分の見直しが必要であるといわれています。改めて、資産配分の見直し=リバランスについて考えてみます。

年金運用における資産配分のリバランス

1. 分散投資

多くの資産に投資することにより、一つの資産に投資するとき比べて、リスクをより小さく抑える、というのが分散投資の考え方です。年金運用の世界でも、今後有望なアセットクラスを予測するのは至難の業であり、分散投資によって収益機会を広げ、リスク許容度に応じた資産配分を行っています。この1年間に限ってみると、元本確保型の資産以外では資産の目減りは避けられなかったと思われます。しかしながら、年金資産運用などの長期投資においては、分散投資はリスクの軽減に有効であると考えられています。

ひとくちに分散投資といっても分散の仕方にはいくつかの種類があります。資産の種類分散、投資対象国の分散、時間を分散するなどが挙げられます。

2. 資産配分のリバランスとは？

リスク許容度に応じた資産配分を決めた上で、資産の運用を始めると、時間の経過、運用実績のばらつきによって、次第にその配分割合が崩れていきます。その配分割合を元の配分に修正することをリバランスといいます。

増えた資産を増えたままに、減った資産を減ったままに放置しておくと、経済循環で逆の価格変動が起こった時に、影響が大きくなります。分散投資における資産の配分は、緻密に管理する必要はありませんが、1年に一度見直すとか、ある資

産の割合が、当初から上下に10%以上ぶれた時に修正するなどルールを定めるのも一つの方法です。

3. 具体的なリバランスの方法

具体的なリバランスの方法は、貯まった年金資産のうち割合の増えた資産を売却し、割合の減った資産を買い増す「預替え」により行います。

通常の証券投資において、リバランスを行うためには売買に伴うコストがかかりますが、DC制度においては、一部の資産を除き売買に伴う手数料は発生しません。また、運用時には非課税の恩恵が受けられ、受給時まで税金の繰り延べ効果が期待できますので、資産運用において大きなメリットとなっています。

現状を把握するため、そして、将来を展望するためにも一度WEBサイトへアクセスし、運用状況を確認してみたいかがでしょうか？

以上

